



不動産、航空機リースをおこなう千島土地株式会社。その代表取締役社長が芝川能一氏だ。2011年に千島土地株式会社の設立100周年を記念して、さらに公益性の高い活動を推進するために、おおさか創造千島財団を設立。「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」として、創造的な活動をおこなう人々が集うような取り組みによって、大阪・北加賀屋が「芸術・文化が集積する創造拠点」となることを目指し、地域再生に尽力している。

**アートは人の心を動かす  
それはすごいことだと思った**

——北加賀屋でのアートプロジェクトの仕掛け人だけでなく、個人収集家としても知る人ぞ知る存在ですが、芝川社長がアートと関わるきっかけは何だったのでしょうか。

**芝川**…きっかけはこの北加賀屋（大阪市住之江区）にある名村造船所跡地です。バブル景気だった当時、土地は一度貸すとなかなか返ってくるものではなかったのですよ。それが、名村造船所跡地が返ってくることになって。返ってくるのが嬉しくなりました。返って、更地にして返す、原状回復義務というものを免除してしまった。当初は大きなヨットなどの保管基地として共用していたのですが、それがバブル崩壊でなくなっちゃいました。それからどうしたものか、途方にくれていたところ、ここをアートの拠点として使いたいという申し出があったのです。その時期は大阪の劇場などがオナーの都合で閉まっていていました。そういう背景から、名村造船所跡



近代化産業遺産「名村造船所大阪工場跡地」であるクリエイティブセンター大阪



コレクション  
 拝見  
 日本のおアートコレクター  
 File 1 千島土地株式会社代表取締役 芝川能一

今回からスタートした、新シリーズ。日本のアートコレクターから自慢の逸品に関する話を伺い、今の日本のアートシーンを探るものだ。File1では、『ラバーダック』の仕掛け人でもある、芝川能一氏にインタビューした。